

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	HOPE加古川			
○保護者評価実施期間	2026年 7月 27日 ～ 2026年 8月 13日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3 2 人	(回答者数)	3 2 人
○従業者評価実施期間	2026年 8月 1日 ～ 2026年 8月 13日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7 人	(回答者数)	7 人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 9月 7日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人ひとりの特性や発達段階に応じた支援を行うとともに、子ども自身の「やってみたい」「こうしたい」という気持ちを尊重し、主体的に活動できる環境づくりを大切にしている。	個別支援計画を職員間で共有し、日々の子どもの様子や変化を細かく伝え合いながら、職員全体で一貫した支援ができるよう意識している。また、子ども自身が「やってみたい」と思える活動を取り入れ、主体的に参加できるよう工夫している。	支援の質をさらに高めるため、職員間での事例検討や振り返りの機会を充実させ、子どもの成長や課題を多面的に捉えられるようにする。また、保護者との情報共有をより丁寧に行い、家庭と事業所が共通理解を持って支援できるよう努める。
2	集団活動を通して、友達との関わりや社会性、協調性を育む機会を大切にしている。また、土曜日、祝日や長期休暇等には平日とは異なる体験ができるよう、活動内容を工夫している。	子ども同士の関わりの中で生じる「困った」「どうしたらいい？」という場面を大切にし、職員がすぐに答えを出すのではなく、子ども自身が考えたり、相手の気持ちを考えたりする機会につなげている。外出や体験活動では、公共の場でのルールやマナーを実際の経験を通して学べるよう意識している。	地域との交流や外出・体験活動の機会をさらに広げ、地域社会とのつながりを感じられる経験を増やしていく。また、将来の生活につながる「自分で選ぶ・決める・伝える」といった経験を日々の活動に取り入れ、子どもたちの自立や自己肯定感の向上につなげていく。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員間の情報共有・支援の統一について、さらに充実させる余地がある。	日々の業務の中では、その日の子どもの様子や対応について情報共有する時間が限られることがあり、職員によって把握している情報に差が生じることがある。	申し送りやミーティングの時間を活用し、子どもの様子や支援方法について簡潔かつ継続的に共有する。記録についても要点を整理し、職員間で共通理解を持って支援できるよう工夫する。
2	地域や外部との交流・社会体験の機会について、さらに充実させる余地がある。	事業所内での療育や集団活動を優先する中で、地域行事への参加や地域資源を活用した活動を計画的に取り入れる機会が限られている。	地域の行事や公共施設等を積極的に活用し、地域社会との関わりを経験できる機会を増やしていく。また、子どもたちが社会の中で様々な経験を積めるよう、活動内容を計画的に検討していく。
3			